

土木工学・建築学委員会
感染症拡大に学ぶ建築・地域・都市のあり方分科会（第25期・第4回）
議事要旨

開催日時 2021年10月14日（木）10:00-12:00

開催場所 遠隔会議

出席者 伊香賀俊治, 伊藤香織, 大岡龍三, 小野悠, 斎尾直子, 齊藤大樹, 佐々木葉, 定行
まり子, 竹内徹, 竹脇出, 増田聡, 南一誠, 望月常好, 山本佳世子, 緑川光正, 渡
邊朗子

欠席者 前川宏一, 赤松佳珠子, 高橋良和, 田村和夫, 三輪律江

配付資料

資料0 議事次第

資料1 緑川委員資料「在宅勤務の普及による住宅内の行動変容とエネルギー消費に関
する実態調査（AIJ2021講演梗概集）」

資料2 南委員資料「COVID-19後の都市, 建築の典型」

資料3 齊藤委員資料「自然災害と感染症についての考察」

資料4 トピック2&5サブWG報告資料

資料5 竹脇委員資料「レジリエンスの概念」

資料6 トピック4サブWG報告資料

資料7 佐々木委員資料「話題提供」

資料8 トピック1サブWG報告資料

議題等

1. 議事要旨確認

第3回分科会議事要旨案が確認された。

2. 各サブWGでの議論内容の紹介

- 竹脇委員から, トピック1SWG感染症が日本と世界に与えた影響について報告があった。他国研究者へのアンケート調査について, 約半数の39名から回答を得ているとの報告及び回答に基づく傾向分析の途中段階報告があった。アンケートのデータについて, 本分科会委員限定で共有することが了承された。各委員がそれぞれの観点より分析を試みる。
- 斎尾委員・小野委員から, 資料4に基づき, トピック2+5合同SWGでの議論について報告された。事実を丁寧に拾い上げる方策として, それぞれの空間スケール(建築・地域)を縦軸に, 空間キーワード, 感染症および感染症対策による生活様式等の変化(個人レ

ベルの変化)、行政・民間等の対応(行政・企業・社会レベルの変化)、激甚災害・人口減少・地球環境問題を考慮した建築/地域のあり方を横軸としたマトリックスを埋め、その関連付けながら議論している。情報という切り口も加えたい。

3. 各委員からの話題提供

各委員より分科会の内容に関わる個人的な問題意識や取り組みについて紹介された。その要旨は以下の通り。

- 緑川委員から資料 1 に基づき、国内のエネルギー消費量に関する状況について説明された。委員会の方向性については、まだ COVID-19 の対応が続いているので、提言というよりは、現状の報告、事実関係をしっかり残すことが重要ではとの指摘があった。
- 南委員から資料 2 に基づき、説明がなされた。住宅、オフィスへの影響として、共同住宅の共有部分(屋上など)の利用の見直しや、国交省都市局、東京都、日本学術会議などの各組織の検討の動向、また幕末の複合災害について報告されている。今後の進め方は、記録が妥当であろう。ただ、オンラインでも報告会は開催すべきと考える。
- 定行委員から、コロナ禍における女子大生の住生活の変化、また保育園の状況について報告された。住まいの利用時間の変化として、自分の部屋はもちろん、キッチンの利用が増えていること、また 2020 年、2021 年のある学生の家族(学生・母親・父親)の生活空間・生活時間の変化をみると、父親のみ在宅勤務が続いている事例があり、これらは生活スタイルが大きく変わることを示していると思われる。
- 齊藤委員から資料 3 に基づき、時間軸・空間軸を踏まえた自然災害と感染症の類似点・相違点について説明された。望月委員より、都市近郊に移住してきている人が増えているが、コンパクトに対してコロナ禍がどのように影響しているのかをきちんと整理する必要がある、とのコメントがあった。
- 渡辺委員から、2+5SWG の取りまとめ方と情報をどのように結びつけるか、2+5SWG が作成しているマップにオーバーレイするような追記の方法を議論しているとの説明がなされた。また、分科会では、コロナ禍をきっかけに日本の潜在的な問題も踏まえ、日本が、日本のあるべき姿、ビジョンのようなものを示したい。情報社会が始まると言われていたときに言われていた兆候が、コロナ禍が後押しとなって本格的なフェーズに入っただざるを得なくなってきたが、良いものは残していきたい。
- 増田委員から、100 年前のパンデミックも忘れていた人が多く、どのように忘れられ、記憶されるのか。直接的には東京郊外への住み替えやリゾートオフィスなどの動きがあるが、ワクチン接種後、どこまで残って、残らないのか? 企業の類型によって二極化していくのか、まだよく見えない。ドラスティックに変わっていくことに対応できる人とできない人がいる。とのコメントがなされた。
- 竹脇委員から、資料 5 に基づきレジリエンスの概念について紹介された。その概念の起源や COVID-19 との関係、コミュニティレジリエンスの重要性についてコメントされた。また情報の整理について、世界経済フォーラムでの AI を用いた COVID-19 分析のよう

な表現もできないかとの提案もあった。

- 佐々木委員から、資料7に基づきパンデミックが人々の風景認識や人生観・社会観に与えた影響に関心があることが紹介された。様々な調査が様々な機関で実施されている中で、見えてくること、見えなかったものを整理し、どういう視点からいまある状態を読み取ったらよいのか、という姿勢をメッセージとして伝えられれば面白い。土木学会土木計画学研究委員会が新型コロナウイルスに関する行動・意識調査が4回実施されており、データが公開されていることも紹介された。
- 山本委員から、情報サブWGでの議論内容の報告がなされた。情報発信をして自分たちがどうしたいか意識するためにも、分科会あるいは特定WG主催のシンポジウムを企画したいとの提案がなされた。前回の分科会において、感染症まん延時と災害時での個人情報取り扱いの類似/相違点についての質問があったが、災害時のGPSデータなど位置情報は販売されるなど利用できる。個人の病歴、行動履歴、ワクチン接種などの情報についても、「個人の」を切り離すと一般的な情報として利用できる。
- 伊藤委員から、自治体との意見交換の中で、今後どうなるのかという問いがなされるが、どうしたいのかが重要で、これを機に見えてきたことから何ができるか、可能性の提示をしていくべきとのコメントがなされた。近隣の重要性は議論されているが、そのときの大都市の話が抜けているように思う。

4. その他

- 資料8 (WG1におけるアンケート結果) は次回分科会で紹介する。
- 次回話題提供者として、大西先生に情報と国土に関する話題提供を打診。
- 次回開催日は2021年12月28日(火)、10:00~12:00 (オンライン) とする。